好評発売中 月刊 工事情報
一全国の主要建設工事データを一冊に一
□PROJECT CLIPPING □市街地再開発ニュース □PFIダイジェスト □海外トピックス
A4判 定価（本体4,500円+税）
日刊建設工業新聞社 FAX▶03(3431)6301 Web▶https://www.decn.co.jp

電子版
紙面ビューワ・記事検索
ご購読者は無料で会員登録できます。
www.decn.co.jp/onlineservice

日刊 建設工業新聞

SANKEN ENVIRONMENTAL ENGINEERING
空気と水の環境創造企業
三建設備工業
〒104-0033 東京都中央区新川 1-17-21 茅場町ファーストビル TEL03(6280)2561
https://skk.jp

建築の魅力を広く伝えるきっかけに

Vers Une Architecture 建築へ

１級建築士に合格した俳優の田中道子さんが、さまざまな分野のプロフェッショナルとの対談を通じて建築の魅力に迫るＢＳテレ東の番組『築き人』（提供・総合資格）が、６日に始まった。人生を築く人と建物を築く人という両者を「築き人」と称し、ゲストの人生や縁のある建物を紹介。建築の面白さや優れた技術に焦点を当てることで、多くの人に関心を持ってもらう。田中さんは「世の中に欠かせない仕事を手掛ける建設業界を盛り上げたい」と話す。

番組での一コマ（総合資格提供）

１級建築士合格の俳優・田中道子さんが出演
対談番組『築き人』（提供・総合資格）スタート

同番組は毎週木曜日の午後8時49分からの放送で、3分30秒のミニ枠となる。コンセプトは「二つの視点から見る建築」。スポーツ選手や芸術家など異業種のプロフェッショナルとの対談で互いが築いてきたものをひもときながら、人と建築が共に成長して文化をつくり上げてきたことや、建築が持つ本質的な魅力を伝えていく。

ゲスト1人が2週にわたり登場する。1週目はゲストが歩んできた道を、2週目は田中さんからの視点でゲストに縁のある建造物を紹介する。初回のゲストは、ブランド「エズミ（Ｅｚｕｍｉ）」を手掛けるデザイナーの江角泰俊氏。建築家の隈研吾氏が設計し、同ブランドのショー会場として用いられた「サニーヒルズ南青山」（東京都港区）を軸にトークを繰り広げる。

総合資格の小野寺執行役員

田中さんは、2013年に静岡文化芸術大学デザイン学部空間造形学科を卒業し、同年2級建築士に合格した。大手芸能事務所のオスカープロモーション（東京都港区、石川薫社長）に所属して芸能活動をする中で、1級建築士も目指すことを決意。ドラマや舞台、バラエティー番組などで活躍する合間を縫って総合資格学院（岸和子学院長）に通って勉強し、22年度の試験に初挑戦で合格した。

今年1月に同学院が開いた祝賀会に田中さんが参加し、総合資格の小野寺優プロモーション戦略本部執行役員と建設業界を盛り上げたいと意気投合したことが、番組企画につながった。小野寺氏は「建設業界の社会貢献や建築の楽しさを、もっと知ってもらいたいという思いが強かった。ちょっと知識があるだけで、いつも見ていた何げない風景が違って見えるはず。そうした時間が提供できるとありがたい。できるだけ長く続けたい」と話している。

詳細は特設サイト（https://www.shikaku.co.jp/topics/kizukibito/）へ。

田中道子さん

世界がもっとすてきに見えるように

新番組に懸ける思いを田中さんに聞いた。

◇

――番組への意気込みを。

「私は試験に受かっただけだが、だからこそ建築を知らない方にもソフトに伝えることができると思い引き受けた。子どもにも大人にも建築のことを知ってもらい、建築業界との橋渡し役になりたい。私自身、1級建築士試験のために勉強したことで建築への見方がガラッと変わった。世界がもっとすてきに見えたり、格好良く見えたり、視野と世界が広がってアップデートされていくような番組にしたい。建築業界の方々が黙々と頑張っている姿も伝えていきたい」

――撮影の感想を。

「その道を究めているプロフェッショナルの方から、1冊の本を読むような内容の濃い話を聞かせていただける。とても楽しい。短い番組だが、視聴者がはっと気付くような瞬間があると思う。できるだけ深いところまで聞きたいので、撮影前は一生懸命勉強している。人生100年時代と言われていて、リスキリング（学び直し）も話題になっている。ゲストに感化されて、新しい勉強を始めるかもしれない。スポンジのように何でも吸収する気持ちで臨む」

――今後に向けては。

「1級建築士の試験に合格したことで人生が変わった。勉強について行けずに何回も泣いたが、総合資格学院にスパルタで鍛えてもらい頑張って良かった。建築だけではなく、新しい知識を得ることがとても楽しい。長寿番組になるよう頑張りたい」

「レギュラー出演している『解体キングダム』（ＮＨＫ総合）で建設現場に足を運ぶと、現場の方に声を掛けてもらえるようになった。だが、建築業界の皆さんにはまだまだ足元にも及ばないと思っている。（1級建築士の登録に必要となる）実務経験の面からも挑戦していく。芸能活動をしっかりやりながら、（多彩な分野で仕事ができるような）三足、四足のわらじを目指して頑張りたい」。

プロの濃密な話を楽しんで

「街のリビング」のような都市型公共建築

concept View
千代田区万世橋出張所・区民館

神田川を挟んだ両岸一体の街づくり

万世橋出張所を建て替えた本計画は、東京都心に位置する秋葉原と神田界隈（かいわい）の両岸一体のまちづくりを目指したまちづくりビジョンにおいて、その架け橋となるよう位置付けられている。

秋葉原と神田は、街としての機能も景観も大きく異なる。二つの街をつなぐ公共建築の開き、自然環境とつながり、あるべき姿は、内にも外にも都市と呼応するインターフェースではないかと考えた。

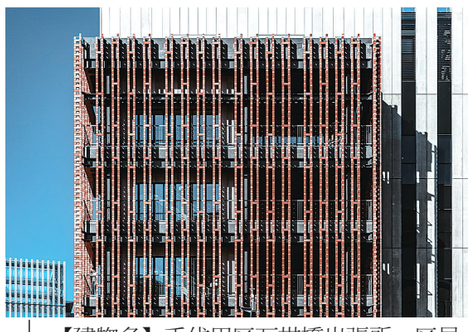
外装デザインは、特徴的な都市景観を持つ秋葉原と神田界隈のどちらにも呼応した新しい万世橋のランドマークとしての姿が求められた。秋葉原は、2Dグラフィックやデジタル文化・流行の最前線であり、制御不能な多様性を持つ動的な景観が特徴である。一方、神田川沿いは、歴史・文化遺産の旧万世橋駅舎に代表される、落ち着いた静的な景観を個性として持つ。

これら二つの異文化の融合を外装で体現することが必要であると考え、両方の街の記憶や歴史資産を継承する「レンガ」をヘリテージとして活用することとした。単にレンガタイルを外壁材として貼るのではなく、3Dのリアルなレンガを積層し、地域に暮らす人々の生活を豊かにすると同時に、環境性能の向上にも役立てている。

この3Dに積層したレンガを「ブリックシェード」と呼んでいる。「ブリックシェード」は、日射遮蔽（しゃへい）や視線制御、通水、通風に加え、植物に優しい保水システムを機能として持ち、緑の成長を促す。保水システムは、構造支柱を通水管と見立て、屋上に貯水した雨水の重力落下により保水を行う構造設備を組み込んだパッシブなエコシステムであり、公共施設における環境配慮装置のシンボルとしての役割を担う。ブリックシェードをはじめとしたパッシブな環境システムの採用により、建物全体の二酸化炭素（CO_2）削減率は計画値で40％を超える。

ブリックシェードは、「環境／風景／時間」を統合するランドマークとしてこの街に調和することを目指している。

環境／風景／時間のランドマークとしてのブリックシェード



【建物名】千代田区万世橋出張所・区民館
【所在地】東京都千代田区外神田１の１の13
【建築主】東京・千代田区
【設計者】日建設計
【施工者】〈建築〉大成・本間JV、〈電気〉大東・丸茂JV、〈空調・衛生〉城口・東洋JV、〈エレベーター〉日立ビルシステム
【構造・規模】Ｓ一部ＳＲＣ造地下１階地上９階建て延べ3654㎡
【工期】2018年10月～20年12月
（エスエス撮影）

日建設計
設計部門
矢野雅規　望月蓉平
吉岡慶祐　小林弘造
西大輔

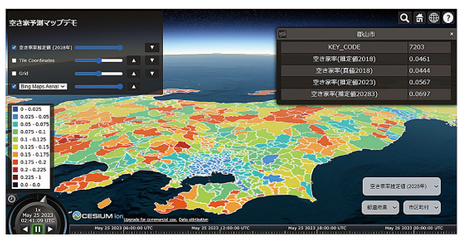
ビューアソフトの仕様検討状況を共有
建築確認ＢＩＭ活用推進協が成果報告会

学識者や建築確認の申請者・審査者の関係団体でつくる「建築確認におけるＢＩＭ活用推進協議会」（松村秀一会長）は6月26日、東京都港区の建築会館で検討成果報告会を開いた＝**写真**。建築確認審査に適したＢＩＭビューアソフトウエアの仕様検討の進捗（しんちょく）について報告した。

松村会長は「ＢＩＭは建築生産に関する業務を合理化させるだけでなく、建築の情報化によって新しい産業を生み出す源になると直感している。その時、建築確認は建築ＢＩＭの要になる」と建築確認でのＢＩＭの重要性を指摘。同協議会の検討成果については「かなり実用化の寸前まで来ている。いろいろと意見をいただきながら実用化に向けて取り組みたい」と述べた。

同協議会は「一般建築作業部会」と「戸建住宅等作業部会」に分かれ、ソフトウエア仕様やＢＩＭ活用の課題などを検討している。報告会ではＢＩＭモデル閲覧時に参照する情報の定義として、審査に対応した属性情報を抽出する手法の検討状況や、ＢＩＭモデルの建築確認で参照するパラメーター標準の検討状況などを説明した。

全国自治体網羅する空き家予測マップ開発
東京都市大・秋山祐樹准教授


現在公開中の将来空き家率マップ（東京都市大ホームページから）

東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科の秋山祐樹准教授が、全国をカバーする将来の空き家予測マップを開発した。総務省の「国勢調査」と「住宅・土地統計調査」を活用して、市区町村ごとの人口動態や空き家率などの情報をＡＩの機械学習で解析。全国の現在と将来（2018年、23年、28年）の空き家率を予測して、地方自治体ごとに地図上に表示できる。

既存統計で空き家調査が行われていない自治体も、ＡＩにより空き家率を予測できるようにした。全国全ての自治体を網羅する空き家率マップの整備は、国内初という。

今後は、町丁目など細かい単位での予測まで拡張していく予定。同じ自治体の中でも対策の緊急性が高い地域の把握を可能にすることで、より具体的な空き家対策の推進を後押しする。

空き家予測マップは、ウェブサイト（https://www.akiyamap.jp/wp/）で閲覧できる。非商用の研究利用向けには原則無償での提供を予定している。法人などの商用利用向けの提供方法も検討する。

景観協議支援求める地方自治体を公募

「建築等を通じた良好な景観形成・まちづくり推進協議会」（近角真一会長）は、景観協議の支援を求める地方自治体を公募する。国土交通省の「令和5年度住宅市場整備等推進事業」の助成を受け、景観協議（デザインレビュー）体制づくりや実施について全般的に支援する事業で、対象自治体を新規募集する。1次締め切りは12日午後5時。

景観デザインレビューは、国交省の支援を受けて景観に影響する建物などの設計内容を創造的に議論する景観協議方式。導入への関心が高まっている一方で、相談できる専門家が地域にいないなどの理由から、具体的な検討が進みにくい状況があるという。このため、専門家の紹介やアドバイザー派遣、地域の景観的資源に関する調査、効果的な協議システムの提案などで後押しする。

景観形成・まちづくり推進協

同協議会の事務局は日本建築士会連合会（士会連合会、近角真一会長）が務めている。これまでに景観デザインレビューの留意点等をまとめた冊子の作成や、景観デザインレビューに関するイベントなどを展開している。

募集要領などは士会連合会ホームページ（https://kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2023/2023-06-16.html）へ。

デザインアワード２部門で募集開始
サンワカンパニー 10月31日まで受け付け

サンワカンパニー（大阪市北区、山根太郎社長）は、「サンワカンパニーデザインアワード２０２３」の募集を開始した。同社製品を使用した優れた施工事例と、サステナブルな住宅設備・建築資材のアイデアの2部門が対象。10月31日まで受け付ける。2段階の審査を経て、最優秀賞（各1点、賞金50万円）などを決める。２０２４年１月に表彰式を行う予定だ。

今回で8回目。審査委員長は施工事例部門を建築家の藤本壮介氏、プロダクトデザイン部門をプロダクトデザイナーの倉本仁氏がそれぞれ務める。

施工事例部門は、22年10月～23年9月末に竣工した住宅または商業施設（海外施設含む）で、同社商品が一つ以上使用されていることが条件。応募作品の設計者または設計会社などから、写真または動画を受け付ける。動画の募集は今回が初めて。

詳細は特設ウェブサイト（http://www.info.sanwacompany.co.jp/design award/）へ。